

# 学校評価アンケート集計結果のご報告

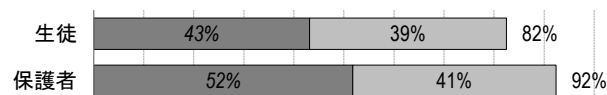
令和3年3月  
静岡学園中学校・高等学校

本校では、未来社会が抱える複雑で解決困難課題を克服できる人材を育成すべく、自主自立の精神、共生の精神、真理と生命を尊ぶ精神、進取の精神を教育理念に、より良い学校づくりを目指して改革を続けております。教育活動の改善、環境の整備のために様々な取り組みを重ねて参りました。その成果の確認とともに改善課題の的確な把握を図るべく、本年度も学校評価アンケートを実施いたしました。集計結果に分析を加え、「生徒のための改革」の進捗と今後の方向性をお伝えするために本書面を起こしました。ご高覧を賜りますよう、お願い申し上げます。

校長 鈴木 啓之

生徒、保護者に「本校に入学して／入学させて良かった」と答えていただけることは生徒を預かる学校が最低限満たすべき要件と考えます。以下の質問に対して「そう思う」から「そう思わない」の4段階で回答を求めた結果、肯定的な回答が占める割合は、生徒が82%、保護者も92%でした。回答結果の解析で把握できた「総合的な満足度に大きく寄与する要素」に対して教育リソースを重点的に配分し、それらの改善をスピーディに進めていきたいと思っております。

**生徒** 総合的に考えて、本校に入学して良かったと思う。  
**保護者** 総合的に考えて、本校に子どもを通わせて良かったと思う。



——— グラフの見方（凡例と集計方法について） ———

凡例: ■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う

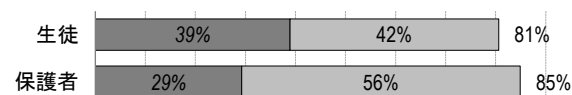
集計結果は、特に断りがない場合、「わからない」を除いた有効回答を分母とした百分率で表示しています。棒グラフの右端外側に添えた数値は肯定的な回答が占める割合（肯定率）です。なお、数値（百分率）は各々小数点以下を四捨五入しているため、表示が一致しないことがあります。

学校への満足度を強く決定するのは、生徒の場合、「学校の授業を受けて進路希望を叶える学力がつくか」「周囲の努力などから刺激を受けて自分も頑張れるか」などであり、保護者は「子どもの進路実現に十分なサポートが提供されているか」「進路や学習の悩みが学校内で解決できるか」が大きな要素になっていることがデータの分析で改めて確認できました。啐啄宣言でお約束した「生徒が向上したいと思ったその時を逃さずサポートすること」の実現に加えて生徒相互の刺激・啓発が十分に働く環境を作り出すことに全校を挙げて取り組みます。また、その進捗を正しく伝える活動にも不足が生じないよう、発信と説明にも一層の力を入れていく所存です。

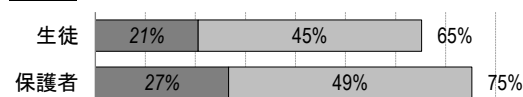
## 【授業・学習指導】

学校の教育活動の中核である学習について幾つかの観点で生徒、保護者に評価してもらいました。啐啄宣言にもある通り、本校では「授業こそすべての教育活動の要」と考えています。学校を挙げて授業改善に取り組んできましたが、現状にはまだ改善の余地が小さくありません。優れた実践に教員が学ぶ機会の拡充を図るとともに、新しい学力観の下での教材研究にも一層の注力が必要です。生徒が自ら見通しを立て日々の勉強に取り組む姿勢の涵養は、まだまだ道半ばです。定期考査などを機に学びの振り返りを行わせるなど、メタ認知と主体性の向上を図ります。

**生徒** 授業にしっかり取り組めば、進路希望を叶えるだけ力がつく。  
**保護者** 学校の授業を通し、子どもは将来を拓く力を身につけられる。



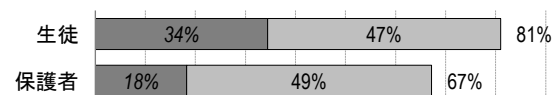
**生徒** 私は、日々の勉強に見通しを立てしっかりと取り組んでいる。  
**保護者** 子どもは、学習習慣を身につけ、日々勉強に取り組んでいる。



学びの個別化への対応は、今後の学校教育の重要な課題の一つです。今回の評価結果に、「生徒一人ひとりが抱える悩みや課題に寄り添うこと」への弛まぬ努力が必要であるとの認識を新たにしています。

**生徒** 学校生活(学業、進路を含む)の悩みに、先生方は親身にに応じてくれる。

**保護者** 勉強のわからないことや進路の悩みは、学校で解決できているようだ。

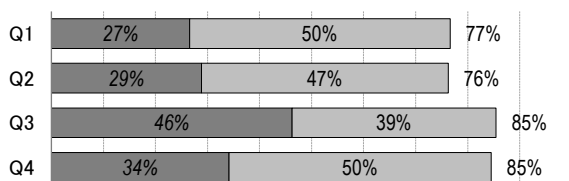


## 【進路指導、キャリア教育】

「生徒の可能性を信じ、生徒の隠れた力を引き出し、一人ひとりの夢と希望の実現を全力で支援する」のが本校の校是です。その第一歩である「夢を実現させるのにふさわしい大学への進学」を達成すべく、指導力の向上や指導体制の整備を重ねてきました。現状では進路関連情報の発信・整備に不足が見られます。この反省は、来年度の運営に活かして参ります。

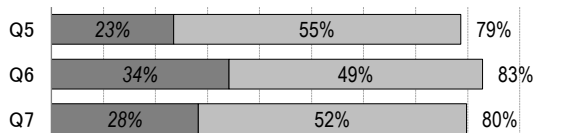
生徒には以下の質問で現状への評価を求めました。Q1、Q2 は高3生の評価は高いものの、中間学年には改善の余地があります。進路実現に本格的な歩みを始める前から自分の将来に向き合わせ、未来を拓く姿勢をしっかりと持たせる必要を校内で確認しました。

- Q1 講演、ガイダンス、面談などは、進路選択に参考になる。  
 Q2 進路について考えるのに必要な情報は、十分に手に入る。  
 Q3 私は、自分の将来に目標や夢を持っている／持てると思う。  
 Q4 進路希望の実現に、学校はしっかりとサポートしてくれる。



保護者には、以下の質問でお尋ねしました。肯定的な回答はどれも8割前後でした。建学の精神、教育理念に照らして一つひとつの指導の在り方を常に見直し、改善を図るとともに、指導の方針や取り組みの実態、様々な場面での生徒の成長の様子などを、通信やHPでしっかりとお伝えしていきたいと思えます。

- Q5 進路指導の方針はわかりやすく、指導内容にも納得できる。  
 Q6 子どもは、自分の将来に目標や夢を持つようになった／なる。  
 Q7 子どもの進路希望の実現に、学校はサポートの態勢を整えている。



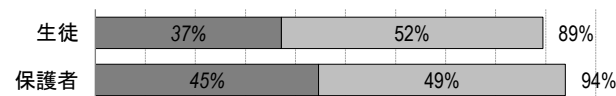
進路指導やキャリア教育の現状に対する教職員の評価は総じて低く、改善に向けた問題意識が深く共有されています。新課程で「主体的な学ぶ姿勢」が求められ、大学入試では志望理由や学習計画が可否を分ける要素になります。生徒一人ひとりが志望理由をしっかりと持てるようになる指導を高い次元で実現することを通し、地域社会・国際社会に貢献する人材を育てるという教育目標の達成に接近を図ります。

## 【生徒指導、自律性の涵養】

生徒指導の場で大切にしているのは、生徒の自主性や自律性の涵養です。ルールや規則をただ守るのではなく、生徒が自ら取るべき行動を考えて、正しく選択する力を養うことに注力してきました。現時点ではこの指導方針の周知にも不足があるようです。如上の方針から逸れない指導の実現に努めます。

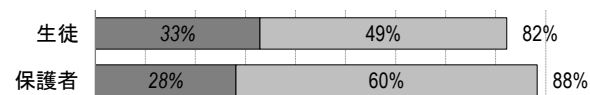
**生徒** 私は、学校の決まりや集団生活のルールやマナーを自分から進んで守っている。

**保護者** 子どもは、決まり事や約束、社会のマナーを自ら進んで守っている。



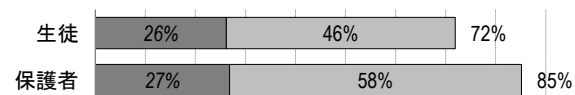
**生徒** 私は、地震、火災、事故などが起きたとき、落ち着いて適切に行動できると思う。

**保護者** 地震、火災、事故などが起きたときの学校の対応は明確で安心できる。



**生徒** 学校生活上の約束事はわかりやすく示されていて、指導には十分納得できる。

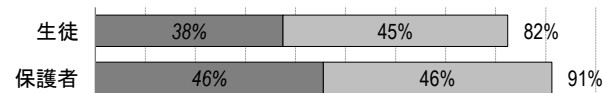
**保護者** 生徒指導の方針はわかりやすく説明されており、内容も納得がいくものだ。



自律性の涵養には、生徒同士／生徒と教員の間で働く相互啓発が重要と考えております。今回その点について生徒、保護者に評価をしていただきました。この項目と学校生活に対する総合的な満足度の間には生徒、保護者ともに高い相関が見られ、相互啓発の働くコミュニティの形成は学校づくりの基本であることが改めて確認できました。生徒が互いの頑張りを知る機会の拡充と、様々な学び／体験を通じた気づきの共有を図ることの2点を軸に改善を進めます。

**生徒** 他の生徒の目標に向けた努力や姿勢に刺激を受けて、自分も頑張れる。

**保護者** 他の生徒の目標に向けた努力や姿勢は、子どもにとって良い刺激になっている。

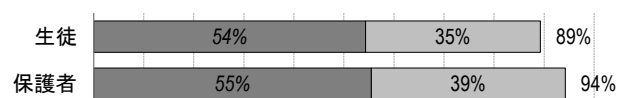


生徒の成長には周囲からのポジティブな刺激が必

要であり、そうした刺激を歪めてしまう「いじめ」や「人間関係のトラブル」は何としても防がなければなりません。以下の質問には否定的な答えも一定数が含まれました。これまで以上に精緻にクラスの状況、生徒一人ひとりの様子を観察し、すべての生徒が不安を覚えることなく日々の学びに取り組める状況を全校態勢で実現していきます。この質問への否定的な回答には、漠然とした「刺激にかける／ワクワクが足りない」との思いも含まれているかもしれません。特別プログラムへの参加を促すことも「つまらない」の解消に寄与する方策のひとつになると考えます。

**生徒** 私は、いじめや人間関係のトラブルなく、楽しく毎日の学校生活を送れている。

**保護者** 子どもは、いじめや人間関係のトラブルなく、学校生活を楽しくしている。



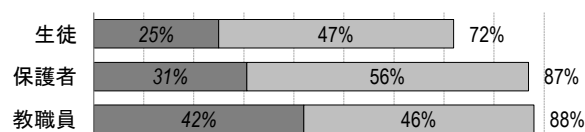
なお、実り多き学校生活を送るための土台は健康な生活、とりわけ規則正しい睡眠と食事です。保護者の目での評価を尋ねたところ、肯定的な回答は84%に止まります。節目ごとに生徒が学習と結びつけて自らの生活を振り返る機会を持ち、改善を図ります。

また、生徒に自律を求める以上、教職員が服装や言動といった「基本」から模範を示す必要があります。生徒・保護者の目には改善の余地が残り、教職員の認識も「現状に改めるべき点あり」です。襟を正します。

**生徒** 先生は服装や言動で社会人としての模範を示している。

**保護者** 教員の服装・動は、生徒に社会人としての模範になっている。

**教職員** 私は、社会人としてのマナーを意識して職務に当たっている。

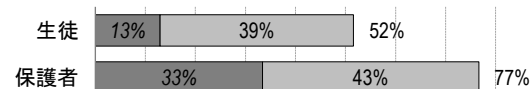


### 【建学の精神、教育理念への理解】

建学の精神や教育理念の下で、教職員がまとめ、その実現に邁進することは、私学としての存在意義の根底たる重要なことであると考えます。当然ながら、これらを教職員の間で閉じては独善的にもなりかねません。以下の質問文で生徒や保護者の理解と共感がどこまで得られているか確かめてみたところ、改善の余地は予想以上に大きく、これまでの取り組みを省みる好機となりました。

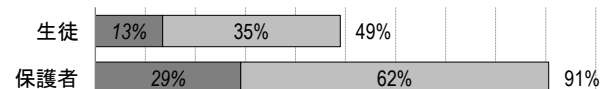
**生徒** 「孝友三心」「啐啄宣言」を意識して学校生活を送っている。

**保護者** 「孝友三心」や「啐啄(そったく)宣言」の内容を知っている。



**生徒** 私は、教育理念の4つの「精神」をきちんと理解している。

**保護者** 学校は、建学の精神や教育理念に沿った教育を行っている。

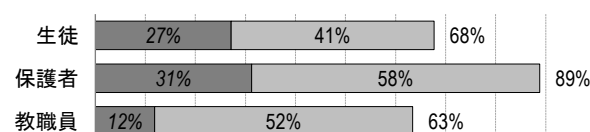


「建学の精神や教育理念の下でのまとめ」や「生徒の前で孝友三心に言及する機会」が十分かを教職員に尋ねてみたところ、やや心許ない答えでした。「現状に満足することなく、生徒のための改革に取り組んでいる」との答えは大多数ですが、新しいことへの挑戦の中でも、建学の精神、教育理念という拠り所を見失わない「不易流行」の姿勢を貫くことが、学校の「歴史と伝統」を作り上げていくのだと思います。

**生徒** 先輩方の活躍や校内の文化に、学校の歴史と伝統を感じる。

**保護者** 本校には歴史や伝統が備わっている／備わってきた。

**教職員** 学校には歴史と伝統が備わってきたと感じる。



### 【特別プログラム】

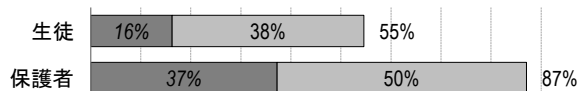
本校では、生徒の好奇心を刺激し、人間力を高めるべく、6つのプログラム(学力アップや静岡学園ならではの学びのチャンスを提供する「SGT」、国際人として土台である日本人としての誇りと自覚を養う「日本の伝統文化継承プログラム」、社会貢献意識を育む「ボランティア活動」、グローバル時代を前向きに生き抜く人間力の獲得を目指す「インターナショナルプログラム」、総合的な学習の時間に生徒が自分で課題を設定し解決に挑む「緑風塾」、地域の方にも誇りを持ってもらえる学校を目指して行う「地域共生活動」)を整えて、その充実を図ってきました。

認知度や成果への評価にはまだ不十分なところがあります。プログラム自体の改善に加えて、活動に対するより深い理解を得るための生徒向けガイダンスや、校内外に向けた広報にも注力していきます。

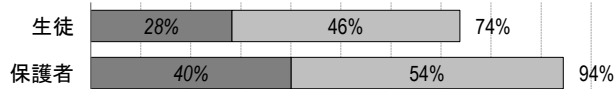
**生徒** SGTや緑風塾の活動には、目的意識をもって積極的に取り組んでいる。

**保護者** SGTや緑風塾など、本校の特色ある教育には大きな期待を

持っている。



**生徒** ボランティアや地域共生活動で様々な気づきや学びがある。  
**保護者** ボランティアや地域共生活動は、社会の一員の自覚を育む。



**生徒** 伝統文化継承や国際交流には、意欲をもって取り組んだ／取り組みたい。



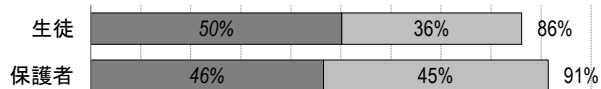
上記 3 領域での生徒の評価は十分と言える水準にはなく、教職員側も各プログラムでの目標達成へのコミットメントや指導手法の改善努力には反省材料が多いとの認識でした。この結果をしっかりと受け止め、今後に向けた検討を進めていきます。

### 【部活動、学校行事、生徒会活動】

部活動は、「啐啄宣言」に表現されている「あきらめることなく自分の可能性を追求する」「自主性と自律心をもって静岡学園の生徒としてふさわしい行動をする」「友情と、先輩後輩の絆を深め、先生方から人間としてのあり方を学ぶ」などの、『生徒の宣言』を具現する大切な場と位置付けます。肯定的な回答をさらに増やすべく、活動の環境や指導体制を整え、生徒一人ひとりが「努力と活躍の場」を持てるように取り組んで参ります。また、学校行事も含め課外活動の広報には不足がありました。改善を図ります。

**生徒** 私の所属する部活動は、環境(練習場所、顧問の指導など)が整っている。

**保護者** 学校は、部活動の練習環境や指導体制を整え、生徒の頑張りを応援している。



**保護者** 行事や部活動での生徒の頑張りが活躍は、通信やHPで十分に伝わってくる。

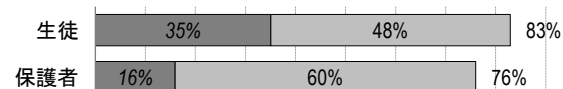


静学祭や体育祭などの学校行事では、自分の成長や周囲との絆の深まりという目的の達成を実感できている生徒が 8 割という結果です。本年度はコロナ禍にあり、様々な制約もありましたが、状況を冷静に

見極めつつ、行事に込めた教育的意図が十分に実現するよう、安心・安全を最優先に今後の学校行事の企画と運営に努めて参ります。なお、以下の質問文での自己評価でも、教職員の大半が現状に何らかの改善課題があると認識しています。各教員の気づきや考えを改めて共有し、更なる改善の方向を探ります。

**生徒** 静学祭や体育祭では、自分の成長や周囲との絆の深まりを実感できる。

**保護者** 静学祭や体育祭の内容・運営には、教育的な意図がしっかりと感じられる。



**教職員** 生徒会活動や部活動での指導を通じて、生徒の自主性・主体性が育まれている。



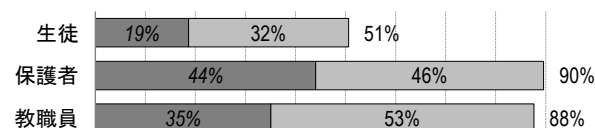
\* \* \* \* \*

学校がひとつにまとまるには、母校／職場に対して一人ひとりが誇りを持つことが必要と考えます。生徒には「校歌」を焦点に訊いたところ、芳しくない結果でしたが、保護者の目に映る「我が子が母校に対して感じる誇り」では 9 割が肯定的な答えです。

**生徒** 校歌を歌うとき、静岡学園の生徒であることに誇りを感じる。

**保護者** 子どもは、静岡学園の生徒であることに誇りを感じている。

**教職員** 私は、本校で教育活動に当たれることに誇りを感じている。



学校評価へのご協力に深く感謝いたします。寄せられた回答は学校に対する要望そのものです。結果に真摯に向き合い、より良い学校作りに役立てます。

**保護者** 学校や先生方は、生徒・保護者の意見や要望に対し真摯に向きあってくれる。



本報告書へのご意見・ご質問は下記にて承ります。

TEL 054-200-0191 FAX 054-200-0195

保護者による学校評価アンケート担当: 教務部研修課

堀川 雅史